

初の国際会議に参加して

生命体工学研究科生体機能専攻博士後期課程2年

金森 弘貴



学会の概要

2013年の10月27日〜31日まで、ドイツのフライブルクで開催された、MicroTAS 2013に参加してきました。本国際会議はマイクロナノ技術とバイオ技術を融合した学際領域分野において、最高峰と言われる学会です。本研究室ではMEMS技術とバイオ技術を融合することで、医療分野や創薬分野に貢献する微小なデバイスの構築を行っているため、本研究室との研究内容と関係が深く、私は本会議への参加を目標としておりました。

研究の概要

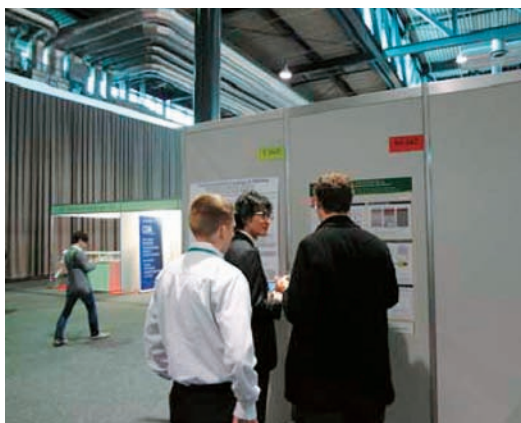
私が行っている研究のテーマは「局在表面プラズモン共鳴を用いた少量の血液から血漿のみを抽出する血漿抽出用マイクロ流路と、血漿中の生体分子を非標識で検出可能な局在表面プラズモン共鳴 (USPR) という技術を組み合わせることで、小型の血液検査デバイスの開発を目指しています。今回、デバイスの検出部を製作し、この検出部を用いて血中タンパク質であるDPA（組織プラスミンノーゲン活性化因子）の検出に成功しましたので、その内容についてポスター発表を行いました。

国際会議に参加して

国際的にも高い水準を有する本会議へ参加したことで、国際社会で活躍するための第一歩になったのではないかと感じています。会議中に発

表された研究も非常にレベルが高く、大変興味深いものばかりでした。しかし、私が行ったポスターセッションでは、私の英語力が乏しいがために十分な議論することができませんでした。相手からの質問を受け、私なりに英語で受け答えするのですが、うまく説明することができず、とても歯がゆい思いをしました。

今回国際会議に参加するにあたり、英語でのポスター発表、質疑応答などひと通りできるように備えていたつもりでしたが、実際に発表の場に立ってみると、全く練習通りにいきませんでした。研究者としての未熟さ、会議参加に対する準備不足



発表の様子

など、私の至らない部分を痛感することとなりましたが、この会議を通じて得るものも多く、他の研究者と比べ自分に足りない点や、自分なりの研究への着眼点などを知ることができたと思います。このような経験は、今後研究を行う上で、非常に良い刺激になりました。今後とも、このような場で刺激を受け、自分自身を高めることを目的に、積極的に国際会議に挑戦していきたいと思

います。最後に、奨学金を援助していただき、このような経験を積ませて下さった明専会に厚く御礼申し上げます。



フライブルクの町並み